

【歴史】半世紀を超えて命をつなぐ

“地域絶滅を防ぐ
“最後の砦”としての
学校保全活動”



1968年

理科部員による偶然の発見。サギのえさを探す中で見つけた1匹のモリアオガエルの死骸からすべてが始まった。

1969年

保護増殖活動（飼育・放池）の開始

2006年

環境大臣賞受賞。
活動が全国的に
評価される。

1989年

旧環境庁より「ふるさといきものの里」認定。



2017年

危機と再生。理科部の廃部決定に伴い、有志による『モリアオガエル保存会』を発足。生徒ボランティアとして活動を継承。

現在（57年目）

全校生徒の約1/5が参加する
地域の環境保全の要へ。

【実践】放池一筋11万匹、命の循環

累計放池数：

110,000 匹

参加ボランティア：約 80 名（全校生徒の約1/5）



【科学】最新技術で解き明かす生態の真実 定説を覆す『656m』の移動距離



環境最適化と野外飼育の優位性立証

人工飼育（モリアオさん家）	野外飼育（学校ビオトープ）
室温24℃・湿度75%の24時間空調管理。赤虫等の混合給餌。	六甲山の伏流水と自然の餌。
結果：水質悪化を防ぎ、孵化率と生存率が劇的に向上。	結果：人工飼育を上回る体長（約6cm）と、野生本来の黒く濃い体色を獲得。



【再生】学校ビオトープから広がる生物多様性

緑の道 (Green Corridor)



確認された108種の動植物



外来種の脅威と適応策

センサーカメラが捉えた外来種(アライグマ等)の脅威に対し、水質管理やインセクトハウス(虫の家)設置を実施。



【展望】山口町から発信するネイチャーポジティブ

『モリアオガエルの郷』構想 & 30by30 ネイチャーポジティブ宣言

1 ため池環境の保護と再生

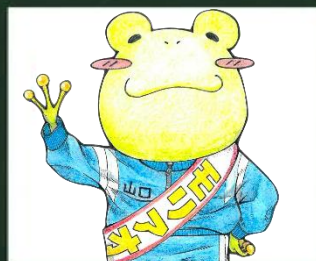
2 モニタリングと研究

3 外来種や脅威への対応

4 ステークホルダー・地域住民との連携

5 持続可能な活動基盤の構築

6 ネイチャーポジティブな社会づくりへの貢献



マスコット
キャラクター
「モーリー」
とテーマソング
「カエル場
所」の設定



中学生が守り続けた命は、 地域の未来そのものです